

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	松浦 信康
所属機関名	生命科学部 生物科学科
職位	教授
在籍年	21 年

教育の責任

講義においては、食品安全衛生学、食薬学を、実験においては、コスメ食品実験を担当している。いずれも学科専門教育の食品分野の教育を担当している。食品安全衛生学では、食品衛生管理者、食品衛生監視員の資格取得と共に、卒業後における食品衛生に関わる知識を享受している。食薬学においては、これまでの歴史の中における食の健康に対する役割を始め、現在の社会問題となっている生活習慣病に至る様々な疾病に対して効果を有する食について、そのエビデンスとともに教授している。コスメ食品実験においては、食品安全衛生や食薬学にて教授した内容を、4 年次の卒業研究において実施できるよう、天然資源に含まれる化学成分の分離、精製そして医薬品の合成等について実施してる。

教育の理念

知識や技術を伝えることなら誰でもできるので、講義、実習いずれにおいても、これまでの自分の人生において得られた経験を乗せ、生活と密接なつながりをもたせながら教育を行っている。講義や実習は教員から学生への一方通行（独りよがり）になりがちであるが、学生の反応をいつも感じながら、今何をどのように伝えるべきかを考えながら教育を行っている。教育することにより、今の時代を生き抜く力を次の世代に伝えていきたいという思いで教員をしています。

学習することと、生活する上における能力（知恵）を身につけることが乖離している学生が多いと感じられる。それらは決して別物ではなく、同じステージにあるものであることを肌で感じ、学んだことを実生活に役立ててほしいと考えている。そのためにも、単なる知識だけでなく、それを実行できる技量を実験において身につけてもらいたいと考えている。

教育の方法・方針

講義においては、必要な知識をただ伝えるのみでなく、常に身近な事象に例えながら講義を実施している。具体的には、自身の経験を交え、どのように関わってきて、どのように問題をクリアしてきたかを伝え、教授している内容が言葉だけでなく、生活の一部として取り入れられるよう工夫している。実験については、学生間の知識、技術量を常に考慮し、個別に指導できるよう、スタッフと協力しながら対応している。また講義に教授したことを常にフィードバックすることにより、知識の定着を図っている。さらに実験を進めることよりも、その場において目的、原理等、しっかり理解し進められるよう、学生の理解度を確認しながら進めている。

教育の成果

食品安全衛生学講義では、毎時間受講講義に対する質問とアンケートを実施した。その結果、不明点の質問のみならず、日頃の生活において抱えている疑問と講義内容を関連づけて質問をするようになってきた。講義終了後の授業アンケートにおいても、興味をもって受講することができたとの評価が多数であった。食薬学においては、実生活に直結した内容であったことから、多くの学生が主体的に講義に臨んだことが授業アンケートにおいて判明した。

今後の目標

時とともに変化していく自分自身、学生の変化を感じながら、決して見誤ることなく、少しでも多くの学生に自分の人生で得たことを含め、様々なことを伝えていきたい。具体的には、現在のスタイルを維持しながら、各講義がカバーする内容全てを理解、記憶しなくても良いので、重要なところを理解、記憶してもらえような講義を心がけたい。

根拠資料

授業アンケート、講義内質問・コメント用紙